

日本徐福協会の皆様へ

いちき串木野市が日本徐福協会加入

2018.5.28 事務局 伊藤記

いちき串木野市から、日本徐福協会に入会申請が提出されていましたが、5月24日、総会での承認を得て会員となりました。

いちき串木野市（2005年に串木野市と市来町が合併）では、今年4月に第17回徐福花冠祭が開催されました。旧串木野市では、故人となられた郷土史家・三善喜一郎さんが、徐福の研究を行ってきており、今回はその息子さんである三善悦朗さんを、日本徐福協会顧問の遠志保さんから紹介していただき、当日来ていただきました。また、三善さんからいちき串木野市の市長の仲立ちをしていただき、前夜祭の会場で田島会長が市長に日本徐福協会を説明し、市長からは加入したいというお言葉を頂きました。

2000年に串木野市市政50周年記念事業として日本最大といわれる徐福像が建立され、「徐福まつり」が始まり、その後、花冠祭（かかんさい）として花の冠を徐福像に載せる祭典となったようです。4月7日の夜の前夜祭では、季節外れの寒風の中、雅楽奉納、湯神楽奉納の神事のあと、徐福像の頭に花の冠が載せられました。翌日は、朝から山車や徐福の頭に乘せた花冠が街を練り歩き、



花冠を戴く徐福像



山車。山伏姿の人も

また、街の広場では、フリーマーケットが開催され、また屋外の舞台では地元の若者の太鼓、日本舞踊、演歌などの芸能が披露されました。

今回のいちき串木野市への訪問の目的の一つは、神奈川大学博士課程に徐福研究のため中国から来て留学している華雪梅さんの研究支援でもあります。

彼女はすでに佐賀市、新宮市、青森県中泊町に調査研究のために訪れ、地元の皆さんには大変お世話になり、ありがとうございました。これからは、日中間の徐福研究の橋渡しをなることが、期待されます。

今回の研究調査のため、いちき串木野市の図書館に行ったところ、徐福の説明パネルと関係書籍がまとまってあり、ずいぶん徐福に対しての資料が整理されてる、と感じたのですが、先日の達志保顧問からのメールを見て、これが三善喜一郎さんが残した膨大な資料の内の一部かもしれないと思いました。



いちき串木野市図書館内の徐福資料

過去の経過

達志保顧問から、先日会員の皆様に過去の経過を記したメールが送られてきましたが、改めて以下に転記します。

この「徐福花冠祭」は2000年11月22日、鹿児島県串木野市（現在は、いちき串木野市）の市制50周年記念事業「徐福まつり」がきっかけとなっています。この日、冠岳展望公園にて「徐福求仙登蓬莱之像」の除幕式があり、あまりの大きさ（たしか台座を入れて8メートル）に一気に除幕できなかったことを覚えています。野外ステージにて柿落としとして長崎龍踊りや、あの田中星児が「徐福来朝」という歌を披露、「ジョフクン」というゆるキャラも登場したのです。その後、その野外ステージで私が基調講演をおこな

い、続いて徐福関係者による意見交換のようなミニシンポがおこなわれました。この全ての企画の中心にいたのは三善喜一郎さん（故人）という方でした。懐かしく思い出される方もあるでしょうが、ご存じない方もいると思い、少し話を続けます。

基調講演の依頼が来ましたとき、私ははじめお断りをしました。なぜなら串木野市に徐福伝説が伝承されているのは郷土史家・三善喜一郎さんがいるからで、三善さんは徐福にまつわるさまざまな顕彰施設を私財を投じてつくり、地域に貢献していらっしゃいました。そもそもなぜあんなに大きな徐福像をつくったのか、それも三善さんが市長をお連れして中国秦皇島市を訪ね、そこで東海に向かって仙薬を求めて聳え立つ大きな始皇帝像を見せ、その始皇帝像に海を挟んで向かい合うかたちで徐福像を建てようと市長をそういう気持ちにさせたからでした。

基調講演はここまでこんなにやってきた三善喜一郎さんが当然すべきだと話しましたが、三善さんからは地元の者が話したのでは自画自賛になってしまっただめなのだ。他所から人が来て串木野の徐福の話をするので、地域の人たちが初めて自分たちの徐福伝説はそんな評価を受けているのかとそのすばらしさに気づくのだと言われました。この指摘は各地で徐福顕彰をおこなっている方々にはよく理解できることかもしれません。

今回、いちき串木野市の登録を歓迎するとともに、こうした三善喜一郎さんがあって今に至ることを、いちき串木野市にはぜひ知っていただきたい、語り継いでいただきたいと願っています。

今回の加入を知り、三善喜一郎さんの息子さん・悦朗さんにいちき串木野市に対してご要望などないでしょうかと尋ねたところ、「串木野市に希望することは高校生とかに徐福に興味を持ってもらえるよう独自の観点で研究して欲しいものです。確かな事実が無くてもこれだけ日本国中に伝説として残っているのであるから夢を描いてもいいのでは。徐福の夢に思いをよせて欲しいものです。」とのことでした。

また、徐福資料館についても尋ねたところ、「資料は市の図書館より欲しいとの要望があり職員が資料館に来て必要なものを持って行きました。ちゃんと保管されていることを願います。」とのことでした。これにつきましてもその行方を確認していくことが必要かと思えます。

「喜一郎の名前より像が残った事実はありがたいことです。それを有効に使って欲しいものです。」とのことですが、私たちの会には三善喜一郎さんに直接お世話になった方も多くいらっしゃると思います。ぜひそうした人たちが言葉にし、次世代につなげていけるようにしたいと思います。現在、中国側からこうした先駆者に関する問い合わせが時折あります。その度に私自身がしっかり把握できていないことを知らされます。その点、各地にお願いしたいと思います。

いちき串木野市のほかにも、日本にはまだ徐福伝説の伝承地がいくつもあります。そうした伝承地が日本徐福協会に入りたいとおもってくださるよう、今年もみなさん頑張りましょう。

いちき串木野市の日本徐福協会加入に際して、記しました。

参考

冠嶽の徐福伝説

薩摩藩が、天保 14 年（1843 年）に『三国名勝図会』という地誌をまとめたが、これによると、孝霊天皇の時代に、秦の始皇帝の命を受けた徐福が不老不死の妙薬を求めこの地に来て、冠を埋めた山が『冠嶽』となった。徐福は熊野へ行ってしまったため、皆は熊野権現の祠を建てた。冠嶽神社は仏教寺院（現在の冠嶽山鎮国寺頂峯院）を含めた神仏習合の修験道寺院であり、江戸期には薩摩国の修験道場の中心として隆盛を極めた。

（冠嶽山鎮国寺頂峯院ホームページより）



花冠祭とは

約 2 2 0 0 年前に秦の始皇帝の時代に童子童女 500 人を含め総勢 3 0 0 0 余りの集団を引き連れて来朝した秦の方士徐福は、その冠を霊峰冠嶽に捧げました。

稲作や五穀を伝えた徐福は、わが国黎明期の大恩人です。

徐福花冠祭は、この故事をふまえ、徐福に花の冠を捧げる感謝のお祭りです。

★前夜祭：4 月 7 日土曜日 17 時から 20 時

雅楽奉納、湯神楽奉納、田中星児ミニコンサート等開催

★本祭：4 月 8 日日曜日 8 時 30 分から 16 時 15 分

- ・地車曳行
- ・生福市・フリーマーケット・地元産の新鮮野菜、手芸・工芸品、おにぎりセット販売他
- ・地元芸能(鷹踊り、日本舞踊、演歌、五つ太鼓など)
- ・甘酒振る舞い(無くなり次第終了)
- ・お楽しみ抽選会(地元特産品や温泉入浴券が当たる)

(いちき串木野市ホームページより)